

枚、瑩潔如玉、腹中白鰾可作膠、

〔類聚名義抄〕石首魚ニヘ 鮠音免、ニベ、一云ク子、 鰾イシモチ 鰾イシモチ 鰾イシモチ 鰾イシモチ

〔下學集〕氣形 鰾イシモチ

〔書言字考節用集〕氣形 鰾通作鮠、事見異物志、順 石首魚鰾 鮠出 黃花魚並見

〔物類稱呼〕動物 石首魚いしもち 京江戸ともにいしもちといふ、西國及四國にてぐちと云、駿河

にてまろぐちといふ、此魚がしらの中に石有、よつて名とす、又江戸にをば、いちもちと云、有別

種なり、是にべといふ魚の小なるもの也、

鰾にべ 此魚の小なる物を土佐にてまろぶと云、大なる物を四國にてぬべといふ、又そち共

いふ、備前にてそちにべと云、にべとは魚の腹中に鰾膠あるゆへに名とす、

〔東雅〕鱗介 鮠ニベ 略中 三べといふものは、其大なるをいひ、イシモチとは其小しきなるをいふ、

イシモチとは其頭中に石あるをいふ也、ク子の義不詳、通雅に鰾石首魚也、一名免魚、小者鱗亦名

見えたり、鮠は即免魚也、又李東璧本草に、鰾魚腹中白鰾可作膠と見えたり、此の俗膠をニベとい

ふ、此魚の名によりしと見えたり、倭名鈔に鰾鰾わかち出せしは、其大小同じかられば、異なるも

のとなしぬらん、正字通の如きも、全くこれ別物なりといひけ

り、説文、爾雅翼、異物志通雅等、皆一物とす、三物なりとは見えず、

〔本朝資鑑〕八 江海有鱗鰾 訓子公切、

釋名、鮠音免、訓久知、石首魚訓石持、源順曰、鰾音聰、知名伊之毛、知其頭中有石、故亦名石首魚、按江都

者腹中有鰾膠之稱、鰾膠亦、
訓仁倍、京師俗通謂久知也、

集解四時俱有之、生東南江海中、西海亦有之、其形略類鮓而長狹、色淡黃白、鱗細、頭短小、尾無岐
肉脆脂少、小者味美、中者次之、大者味淺不佳、頭中有二石、不圓不方、或瑩潔、或暗濁、如玉礫之碎小者、
大抵比鱈魚頭石則稍小也、腹中有白鰾、可爲膠粘物、甚固、筑之博多、肥之長崎、工匠作中華朝鮮之弓
弩、皆用此鰾膠及諸魚之鰾、云未詳、或以鰾膠爲止血藥、最有驗爾、